1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690500125		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家 吉祥院 ユニット①		
所在地	京都市南区吉祥院西ノ庄東屋敷町1-2		
自己評価作成日	令和4年6月9日	評価結果市町村受理日	令和4年8月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

JR西大路駅の近郊で市バスの駅から5分以内で交通の便が良く、近くに公園もあり近隣住民の方との交流も多い場所に立地しています。施設の玄関前にはバリアフリーの散歩道と植樹があり、ベンチも設置してあるので気分転換できる場所にもなっています。コロナウイルスの影響で面会や外出など、交流の機会がなくなりましたが、現在は時間制限はあるものの、面会や外出も少しずつ増やしています。

レクリエーションの面でも、室内で行うものばかりを中心にしていたので、食事を楽しむことができるよう、普段の食事メニューにはないものを手作りで楽しめる機会を各館で作っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地1「ひと・まち交流館京都」1階
訪問調査日	令和4年7月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームたのしい家吉祥院は、株式会社ケア21により、2017年3月に開設されました。3ユニットあり、現在の入居者数27名、平均年齢は88歳、平均介護度は3.3です。コロナ禍で外出できない中、職員は利用者に食の楽しみを継続して提供しています。各ユニットに食事系レクリエーション係がおられ、定期的に会議を開催し、日頃聞き取ったリクエストを検討し、アイデアをだして、イベント時や食事レクリエーション、おやつレクリエーションなどを企画しています。毎月1回、家族に向けて利用者の日常の様子と健康面の状態を書き、家族に安心を届けています。フロアミーティングや全体ミーティングでも職員からの活発な意見が多くあり、話やすい職場環境ができています。緊急時や看取り時には、いつでも管理者の支援を得ることができます。職員の離職率の低い職場です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に経営理念やコンプライアンス・マニュアル等を管理者あるいは職員が読み上げ、理念を共有している。また入職時に本社にて法人理念研修を行っている。日々においても理念の一つである「徹底討論・徹底和解」を実践し、円滑なコミュニケーションを図っている。	会社の経営理念に沿い、単年度ビジョン(11月更新)を作成している。今期は「家庭的な生活～自分らしく、楽しく、生きる～」を掲げ、生活向上リハビリ、認知症緩和、地域交流の3視点で、事業所としての行動計画を立てている。朝礼時に経営理念やコンプライアンスの徹底を図り、ケア検討時に、単年度ビジョンが支援できているかの振り返りを行っている。特に管理者は、利用者に対しての気配り、目配りを指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に入会している。 現在は外出の機会を積極的には行っていないが、地域行事などへの参加で交流できる場を持つようにしている。また、運営推進会議への参加の促しも行っている。	コロナ禍で、地域の行事やイベントは自粛であり、まだ再開の予定は届いていない。松尾大社の神輿は、事業所前の道路を通り、例年楽しみにしておられる。事業所としても、近隣の方や家族を招いての夏祭りの開催は未定である。ボランティアとの交流も自粛であるが、唯一今年の2月、太鼓クラブの有志が来所して、駐車場で演奏会がおこなわれた。ボランティアの方たちからは「協力したい」との申し出もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主催のイベントを行う時は地域も巻き込んだ計画を立て、交流により認知症の理解を発信するよう努めている。(現在はコロナウイルスの影響により実施できていない)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回のペースで開催し、ご家族・ご利用者・地域包括支援センター・ケアマネ・担当職員が参加して意見を反映させている。参加が難しい方には書面にて意見を集約できるよう取り組んでいる。	運営推進会議メンバーは、家族(3~4名)と地域包括支援センター職員である。コロナ禍では職員以外は書面で意見を得ている。利用者状況、事故報告、ヒヤリ・ハット報告、行事報告、職員異動の報告、事務報告、家族からの意見に対しての事業所方針など報告がある。家族に会議への案内を出し、議事録を送付している。	運営推進会議メンバーには地域住民の代表者(知見を有する者)の参加が必要である。地域代表メンバーの参加を期待する。

京都府 グループホーム たのしい家 吉祥院 ユニット①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録を送付、また市町村担当者と電話等で連絡を取るなど、事業所の取り組み状況を伝えながら、協力関係を築いている。	運営推進会議議事録や事故報告書は郵送である。インフルエンザ予防接種の申請などのほか、相談などは電話でおこなっている。市主催の防災訓練や地域ケアマネジャー会議には参加して、関係機関との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内において身体拘束適正委員会を発足し、定期的な研修を行い、理解と意識を深めている。	「高齢者虐待防止のための指針」を作成している。「虐待防止・身体拘束適正化委員会」は、運営推進会議で2か月ごとにおこなっている。来季(11月～)からは合同ミーティングでおこなう予定である。職員への周知は、議事録を回覧しており、パソコン内にも議事録は入力してあり、閲覧は可能である。「ちょっと待って」や「また同じこと言った」などは、禁止にしている。以前、離設者がおられ、近所の方から警察に通報があった。各ユニットと玄関は施錠している。年間目標達成計画で「センサーマットの使用を少しでもなくす」に組み込み、こまめに巡視、見守りをおこなっている。現在使用者は1名である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議で虐待防止の研修を定期的実施し、職員の意見交換の場を設け、常に自身の振り返りを含めた虐待防止に努めるよう意識している。法人としても定期的に虐待に関するWEB研修を実施しており、職員が出席できるよう調整している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所での研修を通じて学ぶ機会を持ち、成年後見制度が必要な利用者に対しては保険者と連携しながら活用できるよう支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、管理者及びケアマネジャーが家族の不安や疑問点を伺い、丁寧に説明を行った上で安心してサービスを利用できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二か月に一度のペースで運営推進会議を実施してご家族の質問や要望・意見を聞く場を設けている。また、地域包括支援センターの意見も反映させている。運営推進会議への参加が難しい場合でも普段から相談や意見の出しやすい窓口を意識している。	令和4年3月22日より面会が可能となっている。家族から、運営に関する意見要望はあまりない。以前「食事の献立表を見せてほしい」や「玄関のホワイトボードに献立を書いてほしい」との要望があり、実施した経緯がある。アンケートは本社が年1回おこない、結果は事業所にも返ってくる。「職員が少ないのでは」や「派遣の職員が多いのでは」などの意見があり、現在は派遣からの雇用はせず職員の充足を進めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回の合同ミーティングやフロアミーティングを通じて職員の意見や提案を聞ける機会を設けている。また、ミーティングなどで発言しにくい事案については個別での面談などを不定期で行っている。	フロアミーティングでは、ケアに対する検討が多い。合同ミーティングで炊飯器やポットの購入、掃除機の更新、パット交換表の見直し、トイレに設置している手袋の見直し、ムース食についてなど、検討をおこなっている。管理者は定期的に職員との面接はおこなっていないが、気になる職員や職員間でのトラブルを感じた時、パート職員の正規職員への移行などに、適宜個人面接をおこない意向確認をして反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握しつつ、「誰伸び制度」という法人における制度で、職員が向上心を持てるよう職場の環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時研修を受講してもらい、一か月後、三か月後のフォロー研修もWEBにて行っている。また、OJTをスムーズに行えるよう、ファイルや確認表の見直しも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	インターネットを利用して研修や勉強会の参加ができる場を設けている。また、参加した職員はミーティングなどを通して他職員と共有し、サービスの質向上に向け取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時や新たなサービスを導入する際も、本人の想いに傾聴して対応するよう努め、本人の安心を確保するための関係づくりを目指している。		

京都府 グループホーム たのしい家 吉祥院 ユニット①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の際は、ご家族が困っている事や不安に感じていることを傾聴し、当施設で行うサービスについて丁寧に説明するよう努めている。また、作成したケアプランをもとに、サービス担当者会議等でご家族とも確認しながら方向性を決定するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前に、利用者及びご家族の意向を尊重しながら必要とされているサービスの確認をし、それに基づいた支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の際は職員も一緒に食事をする中で、暮らしを共にしている時間が得られる場面を提供している。また、食器拭きなどの家事ができる利用者については一緒に行える時間を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の制限も緩和し、本人と直接関われる時間が持てるよう支援している。外出支援に関しては、職員ばかりが支援に携わるのではなく、ご家族としか過ごせない時間も大切に考えお便りなどを通じて促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の生活歴に目を向けながら利用者にとって馴染みの場所への外出提案を行っている。実際に外出自体が難しい場合でも馴染みの場所の話をしたり、友達と連絡を取りたいなどの希望に応えている。	コロナ禍でも、行きつけの美容院に家族とともに通う方や、家族の迎いで法事に出席された方はおられる。趣味ではかぎ針で編み物を続ける方、歌の好きな方は、カラオケを楽しんでいる。日常的に食器洗いや拭き、洗濯ものたたみなど、できることで役割を分担している。担当職員は、イベントや日常の様子、健康面を書き、写真を載せて「たのしい家吉祥院」を毎月家族に届けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グループ・個別レクを通して利用者同士が関わりを持てるよう職員が間に入って支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了していても、ご家族からも相談等があった場合には必要な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所が決まった際には、自宅などで面接を行い、本人やご家族の思い、希望などの意向を確認し、ケアプランに組み入れて支援を行っている。また、入所後も日々、利用者本位の把握に努めながら、ケアプランを定期的に見直している。	職員は日常の生活の中でも利用者の意向は聞き取る努力をおこなっているが、利用者からどこかに行きたいなどの発言はなくなっている。介護記録に利用者の発言や様子の記録は少ない。管理者は、ありのままの利用者の様子を、記録に残すように職員に指導している。	夜間の睡眠状態の記録は、良く理解できる。日中の活動の様子や、利用者が発した言葉などの記録も期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴や暮らし方、環境などを本人やご家族から傾聴し、随時アセスメントを行い、馴染みのある暮らし方の把握と実践に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタル測定を行い本人の体調の変化に注意している。毎月一回の体重測定でも大きな変化がないかの確認を行い現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や提携医療機関と情報を共有し、課題を見つけ出したアセスメントをもとに、それぞれの意見やアイデアを反映しつつ、ケアプランを作成している。定期的だけではなく、利用者やご家族、職員と情報を共有しながら計画書を作成している。	各ユニットごとに介護支援専門員の配置がある。6か月ごとにケアチェック表を用いた再アセスメントを実施し、評価表を用いてモニタリングをしている。その上で、サービス担当者会議を開催（必要時は臨時でも開催）し、個別支援計画の見直しをおこなっている。介護課題に対して、サービス内容が少ない。診療医や訪問看護師から、必要に合わせて意見書を得ている。家族の意向は、コロナ禍のため電話で聞き取っているが、次回からは参加の予定である。個別支援計画の同意を得ている。	課題を抽出し介護計画が立案されている。サービス内容を考えられるときは、利用者の個性性を配慮し、具体的(5W1H)に表記される方が、介護の統一が図れるのではないかと期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき、工夫などを個人記録に記入しつつ、フロアミーティング等を活用して職員間で常に情報を共有しながら、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節行事や誕生日会などを楽しんでもらうなど、日々のサービスだけでなく、多様なサービスが楽しめるよう心掛けている。ご家族にも参加できるようお便りなどを通じてお知らせし、参加を促している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全に配慮しながら、施設の玄関前にある散歩スペースや、近くの公園へ散歩するなど地域資源を活用しながら暮らしを楽しむよう努めている。		

京都府 グループホーム たのしい家 吉祥院 ユニット①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医についての説明を行い、協力医療機関外の医療機関でも継続して訪問診療が受けられるよう希望に添って提案している。	協力医療機関の訪問診療をほとんどの利用者が選択している。少数の方は以前からのかかりつけ医を継続し、訪問診療を受けている。往診もあり24時間指示を受けることもできる。協力医療機関の訪問診療には、薬剤師も同席し意見交換があり、薬を飲みやすいように分包して配薬の支援もある。希望者には歯科往診もあり、歯科衛生士による口腔ケア(毎週)を受けることができる。他の受診は家族が同行している。看護師は訪問看護を依頼していたが、雇用(週3~4日)が決まり、訪問看護から変更の予定である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回、訪問看護を実施しており、日々の気づきや変化を情報共有している。利用者が適切な看護を受けられるよう利用者に変化が見られた場合は随時連携を取り、受診もスムーズに受けられる体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には病院との情報交換や相談を通じて、できるだけ早期に退院ができるよう努めており、退院前にはカンファレンスを開催し、施設へ戻られてからのケアについて話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化における指針を説明している。また状況に応じてご家族や医療関係者と共に終末期のケア方針について話し合いを行い、事業所で出来ることと出来ないことを理解頂いた上で進めていくターミナルケアについても説明している。	「重度化対応・終末期ケア対応に係る指針」を作成している。訪問診療の医師から、看取りについて話される機会があり、職員は集まって受講している。看取りの時期を迎えると管理者、職員はカンファレンスを開催している。管理者は職員からの連絡を24時間いつでも受けつけ、必要な時は駆けつける体制をとっている。看取り時には、家族も居室に椅子を入れて過ごしている。昨年度の看取りは全体で2例である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の手順は、会議やマニュアルを通じてスムーズに対応できるよう、事故発生時の救急対応として備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練(年二回、昼間・夜間想定)には職員がそれぞれ役割を決めて参加し、消防署立ち合い時は利用者も参加している。マニュアルを各フロアに設置し、緊急用の備品も用意している。	コロナ禍で消防署の参加はなかったが、年2回昼夜想定火災訓練をおこなっている。以前は地域の方も参加して、水消火器を使った訓練をしたが、今回は利用者とともに駐車場に避難する訓練をおこなった。地震時も駐車場に避難することになっている。次回はAEDの講習も予定している。事業所は福祉避難所に指定されており、有事の際は近隣の方も受け入れるつもりでいる。備蓄は食料、水など3日分がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについては、馴れ馴れしい口調にならないよう職員同士が注意しながら対応している。 また、接遇マナー研修の実施やフロアミーティング等での話し合いを通じて自身の振り返りができるよう努めている。	接遇の研修はzoomを利用し、職員全員が受講している。今期の目標達成計画に「一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ね無い」と挙げ取り組んでいる。一人ひとりの生活リズムを大切に、就寝時間も無理に決めず本人の意思を尊重している。本人の意思と反する職員の言葉かけは、その時々で注意している。その結果「利用者を否定する言葉」は少なくなっている。トイレの扉は閉めるように心掛け、認知症により羞恥心が減少した方の更衣にも、職員が配慮するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりに目を向け、希望についての傾聴を行っている。また発言、行動などから読み取れる要望などにも注視し、要望の本質について職員間で共有し、サービスへ繋げるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が主体と考え、一人ひとりのペースに合わせて支援するよう努めており、毎月のミーティングでもそれを軸として考えるよう確認している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時など自己選択ができるような言葉かけを行っている。身だしなみについても鏡の前で自身の顔などを見れる機会も大事に考えている。		

京都府 グループホーム たのしい家 吉祥院 ユニット①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きやお盆拭きなど出来ることを一緒に行っている。季節の行事で行う食事についても利用者と考え、準備も可能な事は一緒に行うようにしている。	食事は昼と夜がチルドで届き、湯せんして提供している。ご飯とみそ汁はユニットで作っている。朝食も手作りのおかずとデザートをつけて、3食が偏らない工夫がみられる。お正月はおせち料理を作り、クリスマスは手作りケーキで楽しみ、利用者のリクエストに応じて、おやつレクレーション(たこ焼き、ホットケーキ、ミックスジュースなど)もおこなっている。朝食の食パンが余ったときには、フレンチトーストにすると好評である。ミキサー食の方には、ムース食での提供もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量のチェックを行い、食欲の低下がみられる利用者は様子を見つつ、医療との連携も図りながら必要に応じて栄養の補給をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しており、自身で出来ることは継続して出来るよう見守り、出来ない日などは手伝ったり介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握や排泄用具の検討をその都度ミーティングで行っている。日中は基本的にトイレでの排泄ができるよう介助が必要な利用者には誘導を行っている。また、その日の体調などにも合わせている。	排泄は自立されている方もおられるが、本人の訴えや、時間をみて声がけしながら誘導している。排泄表に記録し、一人ひとりのパターンを把握している。夜間も職員が付き添うが、転倒の恐れのある方はおむつで対応している。トイレには利用者が作った汚物入れ袋が用意されており、防臭に役立っている。ポータブルトイレの利用者はおられない。今期の目標で、「排泄の自立支援」に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼ってばかりではなく、自力排泄ができるよう、水分摂取量に気を付け、野菜などの繊維質の摂取や、体操などの参加も促している。		

京都府 グループホーム たのしい家 吉祥院 ユニット①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に二回をベースに本人の意思や希望に添って予定を変えながら午前中をメインに入浴対応している。また、希望によって日を変更したり可能であれば入浴回数も増やしたりしている。	週2回の午前中での入浴を基本としているが、必要に合わせてシャワー浴での対応もしている。浴槽は、左右に台が取り付けられるようになっており、利用者の身体状況に合わせて負担なく入浴できる。お湯は一人ひとり新しく入れ替えている。12月にはゆず湯を楽しんだ。同性介助の希望者はいない。入浴を拒否される方も、職員の上手な対応によって機嫌よく入られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に居室へ戻り、好きなように過ごせるよう見守り、昼寝など個々の自由を尊重している。 夜間の入眠についても眠くなるまでリビングで過ごせるような配慮もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を職員間で共有・理解できるよう専用の引出しを設置している。 服薬の際は必ずダブルチェックを行い、服用後の変化にも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり、出来ることの継続のため家事を一緒にしたり、個別でレクを行ったりしている。 役割として本人にも認識できることを、職員側から提案する形を意識して取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気象や体調に考慮しながら本人の希望に寄り添うよう努力している。しかし、時間までは要望に応えることは出来ていない。普段、行けない場所についてもなかなか希望に沿えていないこともある。	コロナ禍で外出行事はおこなっていないが、気候のいいときは庭の散歩をして気を紛らわせている。以前には行っていた買い物にも行けていない。コロナに罹患した方もおられ、入院には至らなかったが、みんなで一緒に出かける外出行事は、まだ難しい。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人にて金銭の所持が禁止されている。 欲しいものがある場合はご家族から預かっているお金で同意を得て購入している。買い物についても可能な場合は一緒に買い物へ出かけている。		

京都府 グループホーム たのしい家 吉祥院 ユニット①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている利用者は自身の部屋で使用されている。携帯電話のない利用者についても電話をかけたいという希望があり、ご家族の了承があれば施設の固定電話にてお話いただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁や廊下など不快に感じないような飾りつけや掲示物を心掛けている。職員と利用者として作ったものを掲示したり、それを話のネタにするなどコミュニケーションのツールとして活用している。	リビングの窓は大きく明るい。ソファが置かれ、くつろぐことができる。テレビの好きな方はテレビの前に座り画面を見ているが、音を楽しむ方が多い。壁にはあじさいの作品や、利用者の写真を飾っている。洗面所は3か所あり、内1つは大きくて3人が一緒に口腔ケアができる。リビングの掃除は職員が毎日おこない、共用部分は併設事業所の運転手が毎日おこなっている。大型の空気清浄機も、2台設置してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の場所は決めておらず、基本的に利用者に任せているが、気の合う利用者は自身で寄っていく傾向なので、自然と話のできる雰囲気になるようなテーブル配置にしている。また、ソファもあるので、ソファの利用も言葉かけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた家具などを入所時に持って来て頂いている。思い入れのある物も、聞き取りを行い持参して頂き、部屋に置くようにしている。	居室担当が制作した表札がかけられている。自宅から持ってきた家具を置くことが出来、写真を飾られている方もいる。他に、テレビや携帯電話、電気カミソリの持参がある。備え付けのクローゼットに収納しきれないものは、倉庫で預かっており、室内はすっきりし空間がある。ほとんどの方は日中リビングで過ごし、お昼寝と夜間のみ居室に入られる。掃除は職員が毎朝掃除機をかけ、昼間も清潔に留意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全には配慮しつつ、一人ひとりの出来ることを把握し、その人に合った補助用具の選択を行って使用して頂いている。その際は、歩行の状況を注視して見守りを行っている。		